

SEM032-11

会場:展示ホール7別室2

時間: 5月25日11:45-12:00

新潟県中越地域の鮮新一更新統魚沼層群からReunion Subchronozoneの発見

Newly found the Reunion Subchronozone from the Plio-Pleistocene Uonuma Group in the Chuetsu area of Niigata Prefecture

植木 岳雪^{1*}, 百原 新², 齊藤 毅³

Takeyuki Ueki^{1*}, Arata Momohara², Takeshi Saito³

¹産総研・地質情報研究部門, ²千葉大学園芸学部, ³名城大学理工学部

¹Geological Survey of Japan, AIST, ²Faculty of Horticulture, Chiba University,

³Faculty of Science and , Meiji University

魚沼層群は新潟県中越地方の東頸城丘陵や魚沼丘陵に分布する鮮新一更新統である。魚沼層群の古地磁気層序については、1970、1980年代にさまざまな研究が行われた。その中で、真鍋・小林（1988）は、石灰質ナンノプランクトン化石から従来のOlduvai SubchronozoneがGauss Chronozoneである可能性を示し、それは魚沼層群中のテフラと広域テフラの対比（里口ほか、1999；長橋ほか、2000など）からも支持される。

今回、魚沼層群の古地磁気層序の確立を目指して、十日町市の魚沼丘陵に分布する非海成層の魚沼層群の古地磁気測定を行った。信濃川支流の田川、川治川ルートの一部で84層準から、古地磁気測定用のコア試料を採取した。段階交流消磁実験と段階熱消磁実験の結果、上位から正、逆、正、逆、正、逆、正、逆の古地磁気極性が得られた。広域テフラの年代から、正の古地磁気極性の層準は上位からBrunhes Chronozone, Jaramillo Subchronozone, Olduvai Subchronozone, Reunion Subchronozone, 逆の古地磁気極性の層準はMatuyama Chronozoneと判断される。Reunion Subchronozoneの発見は日本で初めてと思われ、Reunion Subchronが地球規模の地磁気の逆転を示すものかどうかと言う点で重要である。今後、Cobb Mountain Subchronozoneの発見に努める予定である。

キーワード:魚沼層群,古地磁気層序,鮮新一更新統,新潟, Reunion Subchron

Keywords: Uonuma Group, Magnetostratigraphy, Plio-Pleistocene, Niigata, Reunion Subchron